

第5回勾当台公園再整備検討懇話会

議事録

日 時：令和4年8月29日（月）9：30～11：40

場 所：仙都会館8階会議室・リモート併用

出席者：本江座長（WEB）、渡部座長代理（WEB）、岩間委員、姥浦委員（WEB）、
庄子委員（WEB）、高山委員、福岡委員（WEB）、
千葉建設局長、佐藤建設局次長、大黒百年の杜推進部長、福與公園管理課長、
阿部公園整備課長、小山公園整備課主幹、鈴木青葉区建設部公園課長

1. 開会

事務局（建設局長）

－あいさつ－

2. 議事

本江座長 議題次第に従って、最初は報告事項ですね。「第4回懇話会における意見とその対応について」ということで、（資料1-1、資料1-2）において事務局からご説明いただきたい。

事務局説明（公園管理課）

－資料1-1、資料1-2、資料2－

本江座長 前回までの議論を踏まえ、基本構想まで策定された。次は、より具体化した基本計画に進むということになった。それに向けて、実際に公園を利用される現場の方々のご意見を聞き始めている。こうした意見を良く聞いて、応えていかななくてはならないのは当然のことであり、基本計画の中に練り込んでいかななくてはならない。ここまでは、基本的に現状の報告ということだが、何かご意見があれば頂きたい。

福岡委員 イベント主催者3社と観光業界4社と、まちづくり関連6社というのは、どういう基準で選ばれてヒアリングされたのかお聞きしたい。

事務局 イベント団体の方々で、主に仙台でいわゆる5大祭り関係のイベントを主催している方。あと、みちのく湖畔公園で行われているライブなど、大きい音楽イベントを実施されている会社等からご意見を頂いた。

福岡委員 既存の重要なステークホルダーの皆さんのご意見も大事だが、これから関わって頂き

たい方にヒアリングしていくことも大事。これから先があることなので、気になった。

本江座長 もし差し支えが無ければ、ヒアリング先のリストを共有していただけると良い。

渡部委員 先日「杜の都の環境をつくる審議会」に庄子委員と一緒に出席し、勾当台公園再整備の報告もあった。

頂いたご意見の中で、基本理念、コンセプトの部分。これまで議論してきたことが、一応集約されて「コモンガーデン」というところと、「ひととまちをつなぐゆとりとにぎわいの拠点」というところできくられ、その下にいろいろ仙台のことが語られているが、そこだけ見ると、アイデンティティがないというご意見があった。ここの言葉の出し方、必ず下の説明のセットで出して、「コモンガーデン」だけが一人歩きしないようにしたほうが、より伝わると思う。

あと、市民参加のことを気にされていた。この議論自体に市民の方々がどう参加できるのか。一応、公聴できることになっているが、公聴して意見言うということではできず、パブコメ等含めて頂くということだと思ふ。そこをすごく気にされていたことを報告したい。様々な関係団体からヒアリングをして頂いたのは良かったと思う。気になったのは、例えば彫刻があるが、「彫刻は空間造形で緻密に調整して絶対動かさない」といった意見が出ている。いろんなことをやっていく中で、彫刻を動かさざるを得ないこともあるかもしれないと思うが、その時に、なぜあそこに、どういうコンセプトで、どういう考えで設置したかといったことを押さえておく必要があるかと思う。

彫刻のことだけにかかわらず、皆さんのご意見の裏の理由みたいなところを、引き続き探っていくことはすごく大事なことだと思う。是非、改めて調査をお願いしたい。

福與課長 今の3点のお話について、「杜の都の環境をつくる審議会」に事務局側で出席した。渡部委員ご指摘のとおりのお話があった。

1点目の基本理念、アイデンティティがないというところに関しては、渡部委員からもお話いただいたように、議論の中ではそういうアイデンティティの話は出てきた。基本的な方向性、基本構想の18ページに基本的な方向性のタイトルだけを見ると、なかなか具体的に何か仙台らしさみたいなものが見えないところもあるが、その説明の内容には、様々な仙台の要素というものが入っているかと思っている。今後の見せ方を工夫していきたい。

2点目、市民参加の話については、今のところ昨年度の基本構想において利用実態調査をしたのと、その際のインタビューをしているということ。それから今年度ステークホルダーの方に、今日説明したような意見交換会を開催、複数回開催させて頂いた。今後、基本計画をまとめていくに当たり、パブリックコメントをやるというようなことを考えている。

3番目の彫刻の話、この公園には8つほどの彫刻があつて、それぞれいわれもあり、置かれた事情も異なる。ある程度調べているが、今後やはり全部が全部現地にそのまま

設置という話は難しいというふうにも思っている。これまでの由来等をしっかり押さえた上で、計画の中に反映したいと思う。資料4の中でまとめているので、この件について、改めて委員の皆さま方からご意見を伺いたいと思っている。

本江座長 続いて、資料3「懇話会開催スケジュール内容及び内容及び関連事業のスケジュールについて」事務局から説明をお願いしたい。

事務局説明（公園管理課）

－資料3－

本江座長 懇話会そのもののスケジュールと、全体のスケジュールについて説明頂いたが、何かご意見があれば頂きたい。

姥浦委員 基本計画の原案というか、基本計画が決まってしまうとかなりの部分が固まると思う。先ほど渡部委員がおっしゃった部分は、重要だと思う。固まってしまうと、もうこの後、市民参加やパブコメなどと言っても、変えられる部分はかなり限定される。早い段階で、どのように市民の人たちの意見を聞くのかということは重要なことであり、もう少し検討が必要と思う。

本江座長 我々も、こういうふうに聞いたらどうだというようなこと、進め方自体についてもコメントできればと思う。

福岡委員 姥浦委員のコメントに重ねて、基本設計の真ん中ぐらいまでに、計画条件や、設計条件の段階で、再整備の形が固まる前に、いろんなご意見伺うほうが良いと思う。

青葉山公園の時は、渡部委員が座長になって頂き、ブレストミーティング手法、ワークショップなどをうまく生かした手法を実施した。仙台市の中にもノウハウが蓄積されていると思うので、同様手法である必要はないと思うが、この方法、どういうふうに進めていくかといったプロセス、この基本計画、基本設計の中のスケジュールが大事かと思う。

本庁舎の実施設設計が先行しているというところも気になる。本庁舎に絡んだオープンスペースもあると思うが、他の自治体で、「もう庁舎の設計が終わったから、あとは利活用だけ考えてください」という委員会が立ち上がり、利活用を全然考えてない状態で、急に利活用だけ検討するといったものだが、実質設計は終わっていて、何もできないといった状態になっている自治体もあるので、庁舎の方ともうまく調整し、できるだけお互いに、ちょっと遅れて公園再整備がスタートになるので、その辺のギャップが出ないように、この垂直の矢印をどう作るかを考えて進めて欲しい。

本江座長 この懇話会自体は年度内で終わるのかと思っていたが、スケジュール表の矢印の頭が来年度に出ているのもう少しかかるかもしれない。その分慎重に、皆さんの意見を聞

きながら進めたい。途中に入る、基本設計と実施設計の業者選定と発注は、デザイナーの選定であるため、重要だ。それらも入ってくるところで、直接我々の仕事ではないが、デザインについても具体化されてくるかと思う。

高山委員 今の意見等にも関連するが、これからこの基本計画を設定していくに当たり、恐らくこのエリア内に、飲食店、カフェとかも設置されることになっていくと思う。そういった希望されそうな、カフェ等を運営している組織等にもヒアリングをして頂きたい。初めに場所が決まってしまって、隅のほうで経営していくとなると、なかなか経営しづらいなど、いろんな面があると思う。そういった方々へのヒアリングや、この運営は民間に任せるようになるのであれば、希望されるような組織の方たちの意見も踏まえた上で、基本計画の方の設計に当たって頂きたい。出来上がってからでは、なかなか運営がしづらく、景観だけが優先された計画になってしまったのでは、生きない公園になってしまう。そのへんご配慮頂きたい。

本江座長 だんだん決めることが具体的になってくるので、これまでの理念的なところについては合意ができて、具体的になると様々な意見が出てくると思う。丁寧に進めたい。

庄子委員 市民の意見を広く聞いていくことは、公園としてとても大事だと思う。その前にターゲットを明確にしていたと思うが、私自身は、公園はターゲットを明確にすることはできないのではないかと考えている。いろんな人が利用して、排除されるようなことがあってはならない。ゾーニングをすることで、少しターゲットが決まっていくが、そのゾーニングをするときも、ターゲットに漏れがないような形で、ゾーニングをしていくべき。もう一つ、市民の方、想定される利用者とか事業者の方から意見を聞くというものの必要であるが、公園利用者ではない、非利用者の持つ価値を、公共施設として捉えることは、すごく大事かと思う。必ず利用者だけではなく、今まで勾当台公園を市民の中で利用していない人などにも、積極的にご意見を出してもらおうような形で意見を拾えれば良いと思う。

本江座長 重要な指摘と思う。にぎわいと言うと、商業施設のようなにぎわいのことを想像してしまい、プロセスでターゲットを定めてフォーカスし、作り込もうといった話になるが、公園は商業施設とは基本的には違うので、「パブリックスペースとしての社会的な役割がありますよ」ということは、繰り返し確認していきながら進めないといけない。

渡部委員 補足的な話になるが、庁舎のほうの整備、計画、設計整備と、勾当台公園がしっかりとコミュニケーション取っているのか、ということ自体に関心がある人もいるように感じている。そういうことしているとうアピールも大事だと思う。

福與課長 本庁舎との関係性について、今回、勾当台公園基本計画策定に当たり、関係課長会議というものを開催している。今回の第5回懇話会開催前に、庁内で開催した。メンバーは、

資料3の「関連事業のスケジュール」に記載している、本庁舎の担当、表小路・つなぎ横丁の道路の担当、それから定禅寺通、まちづくりの担当部署、区の公園部署も入り、我々の公園再整備の進捗の確認をし、内容の確認と同時に、関係事業の進捗の確認、内容の確認、協議事項などの確認といったことを実施し、臨んでいる。今後も、横の連携を密にしながら進めていきたい。

本江座長 市民利用がパブリックスペースとして幅広いということは当然だが、庁内でも関係している人たちがたくさんいるプロジェクトだと思う。横連携というと縦割りが前提であり、たくさん人が関わるプロジェクトを進めることは、プロジェクトマネジメントのモデルにもなるというところで、重要な仕事だと思った。

続いて本題、資料4「勾当台公園基本計画について（ゾーニング・動線の方針について）」事務局から説明頂きたい。

事務局説明（公園管理課）

－資料4－

本江座長 急に具体的な話がたくさん出てきて、委員の皆さんは実践的な活動をされている方も多いので、話が具体的になると目の色が変わるという感じがある。ご意見やご質問を頂きたい。

渡部委員 説明の中でステージの話があり、ステージは角の所に、ということになっている。基本構想の中では公園施設の中で、野外音楽堂、売店、市民広場、ステージ、いこいの広場など、各施設の計画的な機能維持更新ということになっているが、ここがこの場所で良いのかどうかや、この公園全体の中で、絶対に残さなくてはならないものはこれであるとか、少し検討が必要だとか、これは要らないとか、そういった評価みたいなことが必要なのかなと思う。何を残して、何を残さないのかというようなものの、基準になるような評価。そういうものをまとめた、残す骨格になるような資料もあると、検討がより進みやすくなるのかなと思うし、その骨格があるだけではなく、残せるのか残せないのか、残すべきなのかそうじゃないのか、といった評価的視点も必要だと思う。

彫刻の話で、これはこっち側の方向を向いてないと駄目な彫刻であるとか、そういう情報と合わせて浮き上がらせるような資料があると、分かりやすくなる。

もう一つ、つなぎ横丁の部分は公園外の区域になるのだが、整備としては人を繋ぐ上で非常に大事だと思う。ここの交通量、通行量は、どのような感じか、以前報告を頂いていたか。気になったのは、一応道路としてちゃんと使えるが、見た目は公園の延長のような作り方は当然あると思うが、当然安全性確保の観点から、どのように車が通っているか、その通行量も含めて規制やコントロールしていくような話はあるか。計画の細かいところは決まっていなくても、どのような方向性かについて聞きたい。

福與課長 つなぎ横丁に関しては、今年度、つなぎ横丁を止めた形のイベントを11月に実施する予定であり、その中で交通量の調査等も実施し、影響などを見ながら、つなぎ横丁の使い方を検討していくことになるのかと思っている。

もう一点の評価の話について、今回懇話会の中で、再整備に当たり留意すべき事項として、評価の前段の頭出について、委員の皆さまにご議論を頂きたいと思っている。ご議論を踏まえて、次回の懇話会において、我々の中で残す方針、移動させるとか、形を変えるとか。そういったところを整理し、お示ししていきたい。

渡部委員 つなぎ横丁を社会実験で止めてみるということは、うまくいけば止める方向で整備していく、といった方向性で考えていると理解して良いか。車は入れないということで。

福與課長 タクシー乗り場の問題などもあり、完全に止められるかという点、それは難しいかと思っている。一時的に止めるとか、イベントの時だけ止めるとか、こういったことができるかというのを、検討していきたい。

本江座長 公園区域の外なので、どのぐらいここでの議論が影響力を持てるか課題ではあるが、このつなぎ横丁や、更に北側に駐輪場があり、これも公園区域の外かと思う。でも隣接していて、明らかに公園の使い方にも影響があるものについては、積極的に関係部署に働きかけ、公園との関係から見るとこうであってほしいといったことで、積極的に進めて頂きたい。渡部委員が言われた、施設の何を残して、何は動かして、何は無くすかということは焦点になる。それぞれ長い歴史があってセンチメンタルなところもあり、設置の経緯が分からなくなっているものもあると思う。そうしたものについて、一つ一つどういう態度で望むのかといったところは、議論が必要になるだろう。

高山委員 つなぎ横丁の話で、参考までに。七夕期間中、コロナ前はつなぎ横丁を3日間、朝9時から夜9時ぐらいまでの間、止めていた。沿線の事業者、駐車場出入り口も多少あるため、そこにはご迷惑をかけたかもしれないが、交通については、さほど影響がなかったのかなと思う。ただ、タクシーが通常待機場になっているので、その辺のご配慮は頂いていると思うが、イベント程度であれば通行止めにしたところで、さほど交通には影響がないのかな、というふう感じていた。

本江座長 一定の実績はあるというところ。予定されている社会実験の結果等も踏まえ、対応を考えているということかと思う。

姥浦委員 管轄が違う中で、一体的にやるということを前面に押し出して頂いた。つなぎ横丁の話も前面に押し出して頂き、とても良かったのではないかなと思っているが、いくつか、仕切れていないような部分もある気がする。例えば資料4の2、整備条件の部分、赤枠が表小路線から市役所のほうは伸びているが、南側のほうはあまり伸びていない。つなぎ横丁だ

けではなく、エントランス的なエリアと呼ばれているような所も含めて。赤枠の意味が理解できないというか、このエリアは一体的利活用として、1つの空間という形にした方が良い気がする。4ページの動線の部分も、白い所に赤い矢印があり、道路の動線計画のような形に見えなくもない。表小路線から市役所のほうは、オレンジ色が入っていて、広場として何かやろうとしているのが見えるが、南側のつなぎ横丁の方は、オレンジ色が入っていない部分もあったりする。全ての図面で、元々の意図が読み取れるような形になっているのかを、もう1回チェックして頂ければと思った。

それにあわせて最大のポイントとなる部分、つなぎ横丁と定禅寺通の交差点が、非常に重要。この交差点を、どのようにするのか。今の形状は、交差点から一度横にずれ、歩道部分に入る。たとえ一体的に使ったとしても、またそこから入る形になる。

例えば、3ページの5「空間ゾーニングと整備の方向性」のところで、タクシーのショットガンが問題というのは重々承知の上で申し上げるが、交通自体は通過交通があるわけでは無いし、そもそも通過交通を認めるべきところでもない。そうすると、ここで発生集中する交通だけ。本当に大した量ではないので、一番町の商店街から真っすぐ脇にずれることなく真っすぐ横断歩道を通して、直線的に広場が見えて、そこにどう入っていくのかというところが、広場というよりはつなぎ横丁になる。広場でやっていることが、つなぎ横丁でも基本的には行われていて、それでそこに入っていくというイメージを、どう作っていくのかというところが非常に重要だと思う。

それから、3ページの民間ビル施設について。エントランス広場の民間ビル施設と一体となって「飲食、かたらい」というふうにあるが、これは恐らく今ある、227'sカフェであり、この一体性は想定していると思うのだが、もう一つやはり重要なのは、ここで白抜きになっている民間ビルについて。恐らく、そろそろ建て替えになるビルなのではないかなと思うのだが、そこの一体性をどう作っていくのかというところは、特にこのつなぎ横丁と、道路も含めて非常に重要になってくる。そこの一体性も、ご調整頂ければと思っている。要は、つなぎ横丁のしつらえをどうするのかは、このビルがどういう1階部分にするかというところと関連してくるし、逆にこのビル1階をどう設計しようといったときに、つなぎ横丁がどういう形になるのか、一つ大きなポイントになる。

場合によっては、この北側の部分の道路はアクセス道路として、今残してあるが、元々道路だったのが東二番丁通のクランク修正のために突然行き止まりになってしまって、それが悪いかなといったところもあるわけだが、その北側の道路も場合によっては廃道にすることも可能かと思う。このビルの設計と、周辺の道路、つなぎ横丁を含め、道路をどうするか、連動してくる。場合によっては、ちょっと急がずにそこは置いておくという手もあるかもという気もする。

今、例えば北側でインアウトしている地下駐車場だが、場合によっては公園側の駐車場入れてしまって、ソフトな部分でその公園の駐車場の一部をそのビルに貸すとか、駐車定期券を渡すとか、そういうソフトな部分を含めて何か対策があるのかもしれない。いずれにせよ、自転車の入口、北側の道路、つなぎ横丁、それから建物っていうこの辺りを一体的に考え、基本的には、にぎわいの広場で何かあるときには、つなぎ横丁でもそれがあっ

て、一番町のほうから見えていて、人が入っていくという。つなぎ横丁の奥の遠くの広場で何かやっているというのが見えているのではなくて、もうすぐこの一番町の所に来たらそれが見えていて、じゃあそこに行こうかという、そういうしつらえをどう作っていくのかという意味では、定禅寺通と、一番町とつなぎ横丁の交差点というのが非常に重要な意味を持つのではと考える。

それから、半分市民目線になるが、最近、夏の暑さが厳しい。仙台の中心部の最大の欠点でもあり、難しいところは、水がない、川が流れていないところだと思う。四ツ谷用水うんぬんという話もあるが、その水をどう市民に、近い状態で親水性を持たせるのかという事は重要だと思った。にぎわいの広場に、フラットだがそこから水が出てくるような、子どもたちがそこに行って遊べるような。入れない水ではなく、むしろそこで遊べるような施設があっても良いと思った。

本江座長　　今までは理念的な話だったが、ものとして具体的にどうするかという中で気付いている点、論点として気にしておかなくてはいけないような着眼点をリストアップするというのも、今回の話の中にある。お気付きのことを流れ関係なく、どんどん言って頂きたい。

庄子委員　　基本計画案の内容を聞き、「つながる」というのがキーワードになっているが、公園自体をつなげていかななくてはいけない。勾当台通があるので、地下鉄の出入り口の話が出たが、地下空間をツールとして認識してもらおうということが大事。地下通路に公園の一部を何か持っていくような、公園の利用者が地下鉄を利用しなくても、これは公園の通路だということを認識させるような。地下通路の中に、例えば彫刻の一部を持っていくとか、そういう一体感を出していくというのも大事だと思う。勾当台公園内に、地下と繋がるエレベーターが1台あるが、使いづらく、乗るときにちょっと怖い。公園利用者でベビーカーや小さい子供がいたら、大きい交差点を渡るのに、ちょっと精神的負担があるので、エレベーターを利用したい。エレベーターも明るい感じにリノベーションして頂くと良い。公園計画の図にも、是非エレベーターも入れて頂きたい。動線も、今の資料だと地上だけを赤線でつないでいるが、地下にもぐるような動線も入れれば、地下も行けることがよく分かるようになる。

本江座長　　エレベーターが怖いというのは、治安的に不安があって乗りにくいといった意味か。

庄子委員：　　何となく暗くて、ちょっと臭くて、といった感じ。乗りたいと思わない。

本江座長　　そこは気にすることだと思う。地下鉄の出入り口そのものを大々的に作り直すのは大変かもしれないが、地下を通り抜けると向こう側に行ける。これは公園の通路の一部だということを、サインで表現するのはできそう。現状では降りると地下鉄です、といった表現になっているので、向こう側に行けるか利用者は分からない。サインの導入や、デザインの問題があると思う。

資料1 ページ目の左下「整備条件分析」の図について。公園の委員会なので、これより範囲を広く書きにくいかもしれないが、将来的にここから 500m 圏内ぐらいのエリアを、パークディストリクトぐらいの公園街区みたいな形に変えていくことを考えると、勾当台公園が中心になる。そうすると将来的に、図の左側、国分町があつて、人が住んでいたり、商業もあつたりすると、反対の庁舎側にも、住んでいる方がたくさんいると思う。この辺りの将来の人口や、これからどのようにしてこのエリア変わっていくのか、500m 圏内くらいからどうやってアクセスしてくるかといったところも含めて。ウォークアブルの中では整理されているかもしれないが。地下駐車場、自転車、歩行者が地下鉄の公共交通も含め、どのようにしてここにたどり着いてくるのかと考えたときに、何かそういった整理は一つ、もう少しスケールが大きめの広域で捉えたスケールの整備条件というものもあってもいいのかなと思った。構想の中では書かれていたような気がするが。

2つ目は、資料4の1 ページ目右側の上「世界とつながる」という部分について。3つの広場があるが、市庁舎の部分が広場というふうには書けない、書きづらいのかもしれないが、この南側の赤斜線の部分だけが広場ではなくて、庁舎の低層や、庁舎の中の半屋外空間など、もう少し公平性といったところで考えたときに、どうやってそこを書けるかが大事だと思った。庁舎の中のオープンになった吹き抜けの空間だとか、通り抜けの空間や低層部の屋上緑地もあるのか分からないが、そういったところも入ってくると4つ合わせて一体性ということも言いやすい。表現は工夫が必要かもしれないが、気になった。

3つ目は、眺望というよりは景観の話で、2 ページ目で動線は整理して頂いているが、一体性で考えたときに、いこいの広場から庁舎がどう見えるのか。歴史の広場は細いが、市庁舎がどういうふうにしてお互い見合うのかとか、いこいの広場の一番角の方から庁舎を見ると、けっこう長軸が取れて景観にも奥行きが出ると思うが、そういった現状の整理等は必要。今こういう状態になっていって、視覚的にどのように奥行き作るのかとか、空間を作るか、そういった整理は必要と思うので、動線の前にそれはあると良い。

合わせて今日、将来的にこういうふうにしていくという方針がここに示されてはいるが、現状の課題としてかなり視線がブロックされているところがたくさんある。どういうところを開いて、どういうところをそのままにして、どういうところを閉じていくのかとかいったところは気なる。

その流れで次に行くと、次の3 ページ目の、いこいの広場から歴史の広場に伸びる河河岸段丘について。具体的に言うと、石組みとそれから階段、壁泉の連続になっている部分が、今、歴史の広場といこいの広場は別々にデザインされているので、完結するようになっていっていると思うが、いこいと歴史の間の河岸段丘を少し切って、石垣と水辺空間という県庁の脇の所も、河岸段丘だという位置づけにしてリニューアルすると、その線が現代的に再生できるのかなと思った。なので、石組みをはつったり、壁泉を直したりするのは結構コストがかかるが、必ずしも全部守るという前提ではなくて、この河岸段丘をどういうふうにして現代的にリニューアルさせるかというところの工夫が必要。石組みの所は残すところもあってもいいと思うが、この壁泉と階段の所、かなりモニュメンタルで上部の彫

刻とセットになって、さっき「彫刻は絶対に動かさない」と言った意見があり戸惑ったが、ここの作り方が、結構デザインのポイントになると思った。なので、そこの作り方。段丘もあるし、段丘が2つに分かれているだけではなくて、少し部分的に、もう少し間ぐらいに段丘があって、いこいの広場とつなげるとか。動線の問題を、上下移動の問題を解くみたいなのもできたので大事だと思う。

いこいの広場の下段、勾当台通に面している所は、かなり交通量が多い道路なので、いこいの広場と勾当台通の間に一皮、子どもが飛び出したりしないよう、何か少し囲われ感のようなものが必要なのか、いこいの広場というものが、一つの大きな芝生なのか、そこが2つか3つぐらに分かれた空間になっているのか、というのも気になり検討事項かと思う。一つの大きい広場にしてしまうと、インパクトはあってイベント時は使いやすいが、スケール感としてはこの水系施設や植栽帯を整理して、ここが全部ずどんと空いてしまうと、イベントの時はいいが、ちょっと居心地とか安全性とか考えると、どうなのかなと思ったので、そこらへんは段丘とセットにデザインの方針として大事な部分だと思うし、にぎわいの広場とも見合っているところなので、お互いどういうエッジを作るのかというところは、大事かなと思った。

この並びで、にぎわいの広場の地下駐車場と地下駐輪場などの改修について。地下部分は多分ないと思うが、換気塔や階段など、いろいろ上に上がっていて、植栽ができないということもあるので、そのへんを工夫しながら、にぎわいの広場のキャラクターと、いこいの広場のキャラクター付けをし、お互いに見合っただけで物理的には繋がっていないが、そのエッジをどう作るかということ、勾当台通沿いのエッジをどう作るかということは、大事かなと思った。

あとはグリーンインフラに関して、5ページ目。ハザードなどを見ていると、ここはそんなに内水氾濫が起きたりする場所ではないが、夏の暑熱緩和みたいな話や、雨水の一時的な貯留浸透みたいなこともあるが、それに加えてどんなことを、ここでアピールできるのかというところは、更に検討が必要だと思った。

最後に、資料にはないが、現状の利活用や課題について1日ぐらい、1日じゃなくても何日か調査したら分かると思うが、河岸段丘の上の部分は、割と歩きながら喫煙をして、割と近隣のオフィスワーカーの人達が休んでいたりするのが多いと思う。割と休日と平日でも、利活用が入れ替わると思うので、そこでの課題、入り口の問題や動線など、恐らく多くあるのだろうと思ったので、一回、これからの活用の話に行く前に、現状の利活用なども整理した方が良くと思った。

本江座長

具体的な指摘がたくさんあった。今日の内容はプランばかりなので、そうではない視点の話もあるし、上下道の話など、指摘があったのはそのとおりだ。必要な情報は、構想のほうにはあったので、計画にも載せるとか、仕上げていく中で十分過不足のない情報をまとめたものにして、設計に渡せば良いと思う。

岩間委員

前半にあったワークショップの話、市民から広く意見を集めたほうが良いのではない

かということを出しながら資料を見ていた。市民から意見を集めることは同意だ。やるべきだと思っているが、専門性が高い議論が進み始めているので、ワークショップをやるのであれば、ある程度前提条件として、こういった資料を見て、理解ができるぐらいの方で整えた上で、属性を絞って開催するのが効果的ではないかと思った。あと、そういったワークショップをするに当たり、例えば動線などを語る際、それぞれの参加者の目線、例えばイベント主催者であれば、車で来たときはこう入って、ここで荷物を下ろして、ここでセッティングをして、といったよう参加者の属性別のシナリオがあると、より意見を募りやすい。例えば、ベビーカーで来た人が地下鉄を利用したのであれば、どこから上ってきて、どこで上に行こうとして、外に流れていくのかといったことが、資料で分かると思いを募りやすく、専門的知識がなくても語れるのではないかと。

全然違う観点で、歴史の広場について。資料2ページ目(1)で「各広場の性格づけ」とあるが、性格付けの割には、そこまで性格が違わないのだなと思った。歴史の広場について簡単な図が3ページにあるが、せっかく昔の人が思いを持って歴史を語る広場であるというふうに設定したのであれば、その性格づけのところから、歩きながら楽しみ語るだけではなくて、例えば空間設計上歩いていると歴史が伝わってきたり、バスを待ちながら何となく過ごしていたら歴史が伝わってくる、といった設計がされているから、ゆっくり過ごすことができるといったように、性格を細かく書くと、より分かれて考えられる。

本江座長

ユーザーの意見を聞きましょうという話、漠然とした図を見せられて「どう？」と言われてもということがあるので、ターゲットを絞るということとは違う意味で、想定している利用者の動きのシナリオというか、「こんなことがあると思いますけど、どう？」といったものを、例えば車いすを利用される方に聞くとか、設営業者の人に聞くとか、「ゴミはどうするの？」とか。すぐ聞かれると思うので、そうしたことを早い段階からやりながら具体的に聞くというのは大事だと思う。

あと、歴史の広場について。これは名前もあって、にぎわいといこいがあって、最後だけ歴史で、3つバランスが悪いというか、言葉遣いが歴史だけ違うのはずっと気になっていて、違う表現がないかなと思っている。古地図広場があったり、林子平像があったりするんで、事後的に歴史の広場という名前が付いたような感じもしていて、特段歴史的な何かがあったというスポットでもない。むしろ再整備の中で、にぎわいといこいと、バランスの取れた名前に付け直してもいいのかなと思っている。ただ通り抜けておしゃべりできます、というだけだと、キャラとして弱いので、もう一押し何か、ということは、そのとおりだと思う。

高山委員

いこいの広場の下段の部分だが、今の段階だと、何となく芝生にしようかな、というような構想が見える。現状を確認頂きたいことが、いこいの広場でもさまざまなイベントが開催されていると思うので、あの場所を芝生にしたことによって、イベントをする場合に養生しなくてはいけないとか、芝生の部分が使えないとか、様々な課題が発生すると思う。そのへんのバランスも考慮しながら、今までいこいの広場で実施していたイベント

を、市民広場の方で実施できるとか、にぎわい広場の方で市役所、前の広場と一体化することによってさばけるというのであれば、差し支えはないかと思うが、全体のイベントのボリュームを考慮頂きながら、検討頂きたい。

あと、つなぎ横丁はとても大切で、七夕でもつなぎ横丁を何で閉鎖しているかと言うと、やはり一番町四丁目から見たときに、にぎわい広場でイベントをしても、知っている方は目的を持って行かれているが、フラッと来られた方は、連続性が途絶えてしまう。そこで、つなぎ横丁の入り口に看板を設けるとか、何かイベントをしていると分かる案内場を設け、その連続性というのを作ろうということで、つなぎ横丁を止めて七夕を実施していた。そういう一番町との連続性という意味では、非常に大事なポイントになると思うので、できれば表小路と同じような扱いで、イベント時だけでもいいと思うので、この利用を拡大しやすいような環境づくりをして頂きたい。

本江座長

いこいの広場の特に下段の芝生でくつろぎの広場のようなものと言っているが、結構大きな芝生広場にしてしまうと、案外使いづらいといえば、使いづらいところもあると思う。今、ハードペーブの方がふさわしい活動もそれなりにあるので、その辺の具体的な絶対的な寸法と、その配置も含めて、議論するようなステージに来たかなという感じは確かにしている。

つなぎ横丁と一番町との間のリンク、これは定禅寺通をどうするかも問題なので、公園の外といえば外だが、そちらにも関係する委員もおり、一体してタイミングもそろえて進めているところなので、是非その話を伝えながら進めるということができれば良いと思う。

私からも何点か。歴史広場という名前がどうかというのは、基本構想の方では、あまり個別に一々の場所のことは話していなかったもので、その位置づけは性格を考える中で、もう少しバランスを取りつつキャラも立て、バス停もあるし、最初に降りるところでもあり大事なので、何か見合った名前を付けたいと思った。

それから、植栽について。木を切るということについては、一定の植栽の整理が起こると思うが、木を切るというと、感情的な反論もあり、センチメンタルな感じもある。ただ、木の生き物としての適正な寿命もあるし、あるいはきちんと手入れした方が、植物にとっても良いということもあるので、そこは、木を切り倒して再開発するという話とは違う。植物にとって適切で、良い整理をするのだということで、やみくもに「とにかく木を切るな」といった話にならないようにしたいし、そこは気を付けて進めないといけない。

あとは、施設について。彫刻をはじめいろいろなものがあって、歴史があって使われてきているので、やめるとか無くすとか、ずらすとか言うと、慎重になるのは当然のことだろうと思うが、そうしたことにどういう評価を与えて、「だからこうした」ということが説明できないと難しいと思うので、きちんと整えるということがある。ただ、長い歴史の中でいろいろなものが、だんだんトッピングが増えていくみたいになっているので、ある程度大きく整理をする、めったにない機会なので、ここであんまり恐れずに、きちんと意味を評価して整理をするということができれば良いかと思う。例えば「彫刻を絶対動かす

な」という話があったが、そのコンテキストがあつて置いたのだから、勝手にこれを動かすな、というのはごもっともであるが、今回はそのコンテキスト自体が変わるという話なので、できれば置いたときの思いや、どういうことを反映してこうしたのかということ、しっかり調べることができれば、今回こう変わったのだから、その趣旨からするとこういう置き方が妥当ですね、というようなことを丁寧にやっていければ合意も得られるし、全体の狙いにふさわしい整理ができるのかなと思っている。割と大きく、動かしくそうなものもあるし、換気塔なんかは機能的なものだから動かさないが、見た目をどうするかとか、そうしたことが逐一課題になっていくかと思った。やはり、どういう理由で動かして、動かした後こういう意味を新しく与えるのかということが、しっかり整理される必要があるだろう。

あとは、つなぎ横丁の話がたくさん出ているが、それに隣接する駐輪場や、公園そのものではないが、影響の大きいものについては、きちんと働きかけをして、一体で考えるということを手間を惜しまずにやろうというのは、先程から出ているところ。

あと重要だと思ったのは、ステージ。大きいステージが2つ、にぎわいの広場と、いこいの広場にあつて、少しずつ役割が違う。関係者の意見の中で、東向きにするのと南向きにするのと、騒音対策のこともあり、方向のことがあつた。現状維持の方向だと思う、ということも意見として出ている。ステージって結構大事で、ここでは何をしたいのかということが、ステージがあるだけで分かるか、もちろん何かやっていたらそういう場所だということが分かるが、何もしていなくても、反響板や大屋根が掛かっているとか、照明の吊り具があるとか、そしてそれを借りて「あなたも何かここで発信しても良いのだ」ということを示すので、ステージのデザインというか、在り方というのは大事なところ。大きいステージが2つあり、資料3ページに、大規模マーケットを実施するときは、一番町から市役所まで抜けて、3ページの左の真ん中の辺。大きいステージはむしろ道に面した場所になって、小ステージというのを北向きに作ろうという内容になっているが、これも一体利用していて、現状の大ステージを使っているとぐるっと回らなくてはならなくなるが、それがいつでもふさわしいわけではないので、何か大勢の人が南北に行き来する際、横にステージがあるのは良いので、この小ステージの置き方も良い案だなと思った。いくつかステージを作るということは、その場でどんな向きで人が集まるかということを作るので、先ほどの利用者のシミュレーションと同じく、うまく設定してもらえると良いのでは。現状とそんなに変わる必要もないかなと思う、置き位置とか向きとか。

渡部委員は、いこいの広場の音楽ステージはちょっと違う場所があるのではないかというお話だった。

渡部委員 違うという意味ではないが、何かこの資料を見ると、これが決まりというか方針として見えてしまうので、少し検討の余地があるような資料の作り方にしたいと思う。

本江座長 ステージというのは、結構大事で、1枚ぐらいはステージ論だけ書いた資料があつてもいいくらいか思った。

あと、ライティングのことが大事と、基本構想に入れて頂いたが、それが反映されているのが、資料3ページ。段差の所の噴水で光のカスケードと書いてあり、ライトアップしますといった文言もあるが、そういうスペクタクル向けの華々しいライティングもそうだが、普通の所の地明かりというものの方がずっと大事。そこに意を払って設計して欲しい。それはビルの明かりなども含めて、総合的な夜の光の状態の設計があって、もちろん暗いと危険だが、キンキンに明るければ良いというものでもないので、その地明かりが大事だということを、織り込んでいきたい。

あとは、市民参加をどうするか。積極的にみんなの意見を聞き、アイデアを出し合いながらものを作るというのを、仙台市の強みとしていきたいということは、いろいろなプロジェクトがあるので、やはりそうしないといけない。プレイスメイキングのワークショップをやると。直接的なステークホルダーの業者へのヒアリングはしているわけで、それをもう少し広げて分かりやすい意見を言いやすい形でワークショップを開催していくとか。でもそういう会を開いても、来る人は限られてしまうということは常に問題としてあるので、幸いコロナも落ち着いてきて、七夕にせよ、ジャズフェスも開催される。そういうイベントを実際に、この市民広場でやれる感じになってきているので、可能ならば、この公園の再整備と、できれば市庁舎も一体的に、市役所で店を出して、その市民、この広場、勾当台公園に来ている人に「ここをこうやって直そうと思っているのですが、どうですか」といったことを話すようなことをしたらどうか。模型作ったり、パネルを置いたり、あるいは人を配置して。通りがかった人に「こここんなふうに変えようと思っているのですが、どうですかね」と言って、「いや、いつもここで困る」とか、「こうなるといいね」といったようなことをその場で言えると、臨場感を持って聞けると思うので、こっちから出て行って、みんながいるところに行って話を聞くみたいこともやれるといいかと思う。そこを現場でやれるというのは、案外面白いやり方かなと思った。

福岡委員

本江座長のご意見に触発されてなのだが、やはりちょっと場所が特別なので、住宅地中の公園ではないので、よくする市民公募というよりは、現場に出て行って、どこまで見せるかは難しいが、勾当台公園とか市庁舎の新しいのも含め、4つの広場空間があるが、そこに対して今こういうふうに使っているとか、ここは好きとかって意見もあると思うし、あとここは課題だとか、もっとこういうことをしたいみたいなといった話と、あと、あわよくば、そこのプロセスに関わりたいという人も見つけることができるかもしれないので、まだ計画が粗いうちにそういうことやってもいいのかなと思った。あとは場所的に、仙台市役所の職員の方とかの若手の方とか、あとは国分町とか近いので、そのへん絞り込んで関わって頂きたい方とか、今後こういうものを持ってきたい、といったところに積極的への働きかけというところも、良いと思った。一方で、そういうとこになかなか物理的に行けない方も多いと思うので、オンラインなどを使って選択式で的を絞り、5分ぐらいで終わるとか、QRコードを貼って意見を言えるようにして、自由記述もあっても良いと思う。そうすると、割とサイレントマジョリティー的な、通りすがりだけど、何か意見言えるような。今まで対面で全部バチバチやって体力を消耗し、意見だけで炎上した

りということもあつたりしたかなと思うので、そのへんうまく工夫して勾当台らしいやり方というのが、見つかると思う。

渡部委員

私の経験的にも意見をしやすく、皆さんもしやすいというのは、目の前に模型のようなものがあって、そこに対しての意見って、すごく出やすいなという感覚がある。まだ計画が固まっていないので、具体的なものを形作れないはと思うが、現状の模型に対して、これまでの大きなゾーニングのようなものが横づけされているようなものがあると、意見しやすいような感じがするので、そういったものが市役所とか、皆さんがいらっしゃる場所に設置してあって、コメントできるというのはすごくいいことだと思った。

本江座長

パブリックスペースをどう作るのかということなので、そのデザインプロセス自体をパブリックにしていかなないと、みんな使っていていいよ、というのを下げ渡すのではないので、その作り方自体にアイデアがという感じで進められていいかな、と思っている。オンラインで実施するのも、文章で意見を書くというと、急にハードル上がってしまうので、みんなが出ている意見に共感できるものには「いいね！」と押せばいいとか、ハードルの低い、参加しやすい形を工夫できるといいなと思った。

庄子委員

この勾当台公園って、このエリアだけではなくて、広く見ると西公園があり、錦町公園があって、その中から捉えていかななくてはいけない部分があると思う。基本構想の時に、それも入っていたと思う。基本計画の中にも、もう少し広い広域の図があると良い。定禅寺通とのつながりに意識が出てしまっているところがあるので、全体が入っている図が1枚入っていると良いのでは。

あと、市民の意見を聞く際に、勾当台公園の利用者に聞いていくというのはもちろん絶対必要だと思うが、例えば西公園を利用している人や、錦町公園利用している人や、そういう人たちにとっての勾当台公園、みたいなものも他の公園利用者に聞いても面白いかなと思う。

本江座長

青葉山公園の整備も進んでいて、結構あちこちで今、同時に進んでいる。何かそれをバランスよくやるといった進め方自体が、大事だと思う。

渡部委員

念押しになるが、3ページのゾーニングの資料に、崖線が変わらないという話があり、歴史広場といこいの広場の連続性の話があるが、この歴史の広場と、いこいの広場の崖線、河岸段丘のライン。これを破線のようなものでくくるようにして、方向性を示して頂きたい。それはこの絵で、前段でライティングの話もあったが、ぎゅっと閉じてしまっていると、これがそういう河岸段丘の線なのかと、市民の方に誤解も生まれそうなので、現時点のアイデアという方向性だ、大きくはそういう連続だということを是非示して頂きたい。

また、スロープの話もあったが、スロープを作るのであれば、そういった崖線ではなく

て、緩急の伸びやかなラインと合わせるような形もあると思うので、是非ちゃんと示して頂きたいと思う。

あと、植栽の話があったが、資料9ページ。先ほどの崖線ではなく、段丘線の話は、この保存樹林とまた重なってしまって、閉じているようになっている。植栽は保存樹林どうするかという話もあるが、次の踏み込む計画の中では、切らずにして、下枝を上げて見通しを通すようなことができるのではないかな。そういった目線レベルでの樹木の在り方検討のようなことも、是非踏み込んで頂きたいと思う。また、薄い緑の着色で、「借景的に利用できる緑」と記載されているが、どちらかという、先ほど交差点部分での人待ちの話があったが、緑陰的な評価もできる樹木とも思うので、そういった話と目線の話の併せて、もう1度この再検討というか再整備について、注意しなければなどと思った。特にその時は、高木は下枝だけ。中低木というのは、なかなか難しくなっていくと思うので、今は高木で拾っているが、中低木も併せて可視化し、検討できるようにして頂ければ良いと思った。

本江座長 グローバルウォーミングで、暑い夏が続く。緑陰の価値はますます上がるし、「ビスタ」とか「視点場」の設定みたいなことに直接関わってくるので、1本1本の樹木だけを見ているのでは分からないことがたくさんあると思う。そうした見方で、植栽の管理計画が具体化できると良いかなと思う。

福岡委員 先程の段丘の崖線の所の捉え方って、多分その当時は、地形で見るとその部分で段差があるということで、抽象的にそう位置づけたことが残っているだけであって、仙台の町中、広瀬川沿いでも、いろんな所に段丘の名残がある。そこの意味をどう考えるのかといったときに、必ずしも高低差があって、そこに石が張り付いていたりすることだけが、段丘の良さじゃなくて、そこにもう少し植物が張り付いていたりとか、あともう少し四季の風景、紅葉山みたいなものなど、いろんな位置づけがあると思うので、これに対して変えていくのであれば、相当いろいろあると思う。必ず、それをより超えるような解釈というのは必要なかなと思っていて、そのときにはやはり仙台の周りにある、そういう関係の性格といったものを町の中に持ってくるということ、もう一回再発見するみたいなことはしておかないといけないのかなと思う。お金のこともあると思うのだが、そこに新しい価値をどう持っていくのかというところを、セットでうまく挑まないと、彫刻とセットでかなり争点になるのかなと思う。

本江座長 やはり何かロジックを作って対応するというふうにしなくては。その時には、パークディストリクトとか、もっと大きな仙台市の歴史的な地理的条件とか、そうしたことから語り起こして、だからこうするといったストーリーをちゃんと作っていくかというのは、ご指摘頂いたとおりにかと思う。難しいが、これ切っていいっていうのを進められると良いが、まあ、そうはなかなかいかないところかと思う。

今日は、脈絡なくいろんなスケールのことを次々言うということで、この基本計画に向

けた初回ということで、頭出しをいろいろしようという会であったかと思う。今日が5回で、6回、7回と具体化を進めて、パブコメも実施して。でもそのパブコメは、やればいいというものではなくて、どうやって意見を聞くかということ自体が、このプロセスの要なので、そのアイデアを次以降も、次の懇話会を待たずにいろいろな活動を始めていただいで構わない、進めていければと思う。

高山委員 基本的な考えとは異なるかもしれないが、仙台ハーフマラソンや、駅伝など、定禅寺通ってけっこうポイントになっていて、そういった意味でカフェなどと一緒に併設するような形で、ランニングなど、この勾当台公園からスタートするための施設といったものが公園の中に併設されると、仙台で駅伝とかマラソンとかやっている意義みたいなのも広がっていく。出張で来られた方なんか朝とかけっこう走られる方が多いので、そういったところを起点にして、仙台の街中をランニング楽しんで頂くとか、そういったスポーツ都市という部分の観点も、この公園の中に機能として盛り込めたらいいのかなと思った。

本江座長 そういったアーバンスポーツの拠点として、それ西公園とか錦町公園とか、もう少し大きな公園のシステムの中で位置づけられるのかもしれない。青葉山公園もある。でも、見た目として面白いのはここ、というのもあるので、何かその役割分担をしながら、スポーツの視点というのも、ご指摘のとおり重要なことかと思う。
以上で議事を終了する。

3. 閉会

事務局（公園管理課）

次回の懇話会については、日程が決まり次第ご連絡する。

以 上